

## 第4回 原子力安全に関する社外評価委員会 議事要旨

1. 開催日時：平成30年3月6日（火） 14時00分～15時30分
2. 開催場所：日本原子力発電(株) 本店会議室
3. 出席者：  
＜委員＞ 北村委員長、竹田委員、大堀委員  
＜対応者＞ 村松取締役社長、市村取締役副社長、和智常務取締役、前川常務取締役

### 4. 要旨

昨年度までは自主的安全性向上の取り組み状況を資料と報告により委員会で確認し、評価、意見及び指導をいただいていた。今年度からは、各委員が原電の取り組みや実務を直接観察し、実務担当者と意見交換することで、日頃気付かない事項について委員から意見及び指導をいただく「実務観察及び意見交換」を実施した。

本委員会では、「実務観察及び意見交換」の3回で受けた意見内容を委員間で再確認し、またそれに対する原電の対応状況を確認する。また、自主的安全性向上の取り組みについてのこの1年間の取り組み及び今後の改善事項や課題を確認し、来年度も原電が注力する活動や課題とする事項について、「実務観察及び意見交換」のテーマとして実施し、委員から意見及び助言をいただくこととする。委員からの主な意見は以下のとおり。

#### (1) 実務観察及び意見交換について

- 実務観察を行った際に、良く実務が行われていた。東海第二の防災訓練ではきびきびとした指示命令系統ができており、各班の代表者が集まった戦略グループ会合を数回開催し、その結論に従って実務を進めており、非常に良いことだと思った。実務観察で気が付いた良い点についても助言しているので、その良い点を各事業所間で共有するようにしていただきたい。
- 東海第二の防災訓練のときはかなりパフォーマンスが上がっていた。各委員から褒めた発言や意見のプラスの評価についても省くことなく、報告書に纏めることにより、現場の人たちにも元気が出るようにしていただきたい。
- 防災訓練のシナリオ作成においては、イベントベースで考えるのと別に、如何にサプライズを入れ込むかが鍵になる。他の業界でも、緊急時対応能力とサプライズ訓練はセットに行っているのが世界的なトレンド傾向となっているので、サプライズを入れ込んだシナリオ作成を行うようにしてください。

○現在は安全対策機器が多様化されて重装備になっているので、ある機器が使用できなければ別の機器を使うとなりがちである。ある段階まではその訓練で良いと思うが、仮にそれが期待されたバックアップシステムが機能しない時に、次を持って来いではなく、それを復旧し軽度の段階で対応しなければならないようなケースも含め、すべての色んな対応性のある事故対応ができるようにしていただきたい。

## (2) 自主的安全性向上の取り組み状況について

○PRA等のリスク情報の活用について、内の事象にある程度限られているかもしれないが、もう少しPRAを有効活用した事故対応やシナリオ作成を検討していただきたい。

○双方向コミュニケーションについて、原子力のコミュニケーションの場面は静粛でなくなることが多い。中立的な多数の方の姿勢が基調となるように仕切って、静かな討論会を実現していただきたい。やり方はいろいろあると思うので、何らかの事前了解を頂いて、そのうえで静かに説明会を行っていただきたい。

○地域とのコミュニケーションに関して、地域の行事に参加し、人と人のつながりを深くし、信頼感が増して、この人だったら原子力を任せられると地域の方が感じて頂けるように、敦賀及び東海の地域の行事には積極的に参加を続けて行っていただきたい。

○双方向コミュニケーションについては、ステークホルダーを巻き込んだ、リスクコミュニケーションの結果がリスクマネジメントに適切に反映されることが大事である。ステークホルダーインボルブメントとして外部との連携をしっかりと考えていることの形を作っていく必要があるので、ステークホルダーインボルブメントについてもしっかりと入れ込んでいることを示すことが大事である。

○緊急時対応について、東海・東海第二発電所は東日本大震災3.11を乗り切った経験は大きな強みとなると思うので、その教訓や経験されたことを敦賀発電所にも展開されるとよい。東日本大震災3.11から7年が過ぎて、風化防止の観点からも大事な点である。

○発電所が長期停止状態となっているので、現場の運転能力を維持できるのかとの質問されたときに、説得力のある回答や説明が出来るような体制を作り、理論武装をしておくことが大事である。

○いろいろな取組みや活動を行っているときに現場の方の繁忙感が当然あると思う。その繁忙感をそのままにしないで、現場の社員が納得して自分の事として取組みができるように上司の方々にはリーダーシップを発揮していただきたい。現場の繁忙感や遣らされ感を避けるために、取組み事項を合理化するとともに、工夫や知恵を絞っていただきたい。

以上

原子力安全に関する社外評価委員会 委員名簿

	氏名	所属・役職等
委員長	北村 正晴	東北大学名誉教授、(株)テムス研究所所長
副委員長	梅津 光弘	慶應義塾大学商学部 准教授 【本委員会は欠席】
委員	竹田 敏一	福井大学附属国際原子力工学研究所 原子炉物理学部門 特任教授
委員	大堀 道広	福井大学附属国際原子力工学研究所 原子力構造システム・廃止措置部門 准教授